8部

卒業者アンケートより

平成26年３月に本学通信教育部を卒業された方を対象に，アンケート調査を実施しました。『With』99号に引き続き，今月は実習・国家試験対策を中心にアンケート結果をご紹介します。今後の通信教育部での学習にご活用いただけたらと思います。

１．アンケートの概要

アンケートの回収状況は，社会福祉学科が97名，福祉心理学科が28名，社会教育学科が２名，無回答が１名でした。

２．実習について

アンケート回答者のうち，実習を行った方は63名でした。行った実習種別については図１のとおりです（複数回答あり）。また，実習を行った目的については図２のとおりです。

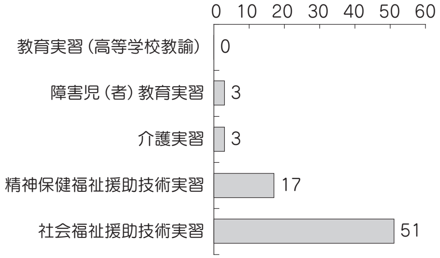

図１　行った実習種別（*N=74*）

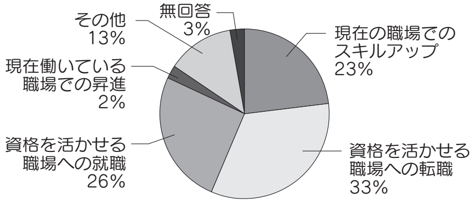

図２　実習を行った目的（*N＝78*）

実習で苦労したことへの具体的対処法については，下記のとおりです。

・毎日の記録がとにかく大変だった。しかし，帰校指導の際に担当の先生から前日のうちに次の日の目標を立て，その目標に関して学んだこと・どこまで達成できたか・反省点を書くようにすればいいというアドバイスを頂いた。その結果，実習開始の頃と比べると記録作成に費す時間が大幅に短縮された。

・社会人を経験しているのでいろいろなマナーなどを知っているはず，と指導

者も利用者も思っていると考えていたので，プレッシャーだった。今まで経験してきて学んできた社会人としてのマナーなど当たり前のことを自分なりにもう一度振りかえって，丁寧に振る舞えるように心掛けた。
・毎日課題を立ててその内容を発表することを実習先指導者より求められたが，それをどのような内容にするか考えるのが大変だった。実習先の業務内容に関するものを手当たり次第に読み，自分なりに実習課題を一日当たり複数設定した。新聞記事や投書欄が役立ったが，事前学習にて実習先の業務内容を丁寧に調べ，「想定課題」を考えておけばよかったと思っている。

実習にて事前学習の準備不足を感じたことはあったかについては，図３のとおりです。６割の方が準備不足を感じたようです。

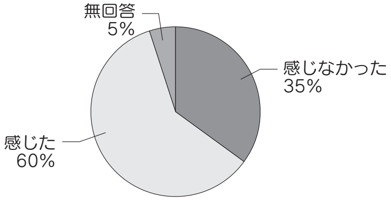

図３　実習にて事前学習の準備不足を感じたことはあったか（*N*＝63）

準備不足を感じた具体的な内容については以下のとおりです。
・最低限知っておくべき知識は身につけておかないといけない（介護老人保健施設と介護老人福祉施設との違い。地域包括支援センターに配置されている専門職についてなど）。
・市町村で行われている制度について，もっと知識があるべきだった。
・実習先の指導者に施設に関連する制度や施設内の環境に関する質問をされ，すぐ解答できなかった。
・地域福祉について，学習を深めておくべきだった。
・利用者のもつ障害の特性に関する学びや準備が不足していた。

実習前，多くの方があらゆる不安を抱えていました。具体的には以下のとおりです。しかし，こうした不安を皆さん乗り越えて，実習を終えられました。
・利用者さんとコミュニケーションがとれるか，利用者さんが実習生という私の立場をどう思うか，実習指導者とはうまくいくか。
・福祉と全く関係のない職場で働いていたので，実習先の雰囲気がつかめず，やっていけるのか不安だった。
・自分自身の年齢を考えると実習先の利用者，実習指導者との年齢のギャップ

が大きいため，うまく溶け込めるか不安だった。しかし，「案ずるより産むが易し」のたとえの通り，やってみれば何とかなるものだと思った。
・体調管理が不安だった。毎日早めに寝て，疲れをためないようにしました。
・記録用紙を埋めることができるかどうかが不安だった。

実習開始前と後とであなた自身が変わったことは何かについて，具体的な内容は以下のとおりです。
・信頼関係の構築，ネットワークの重要性を実際に学び，自分のこれからの活動の指針を築くことができた。
・より一層相談援助の仕事をしてみたいと強く思うようになった。さまざまな現場を実際に見て，自分に自信がついた。
・社会人としても，対人援助職としても，「＋α」の声掛けで新しい発見や収穫があることを実感し，小さなことからコツコツと積み上げていく重要さに気づけた。「＋α」の声掛けをできるようになりたいと思う。
・ソーシャルワーカーとして基本的姿勢を理解することができた。実習を経験して，失敗だらけでしたが，成長できたと思う。
・利用者の方とのコミュニケーションの大切さ，そこから生じる相互作用が支援にも深く関わってくることなど，実際に体験しなければ理解できなかった。実習後，自分に不足している部分が明確にできた。
・視点，とらえ方が変わった。厳しい現場を目にしたことで制度上の問題点に歯がゆい思いをした一方で，やはり福祉は人なのだ，と思うことばかりだった。
・「百聞は一見にしかず」だった。終わってみると貴重なよい経験ができた。

３．社会福祉士・精神保健福祉士国家試験について

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の勉強について，勉強開始時期は図４のとおりです。

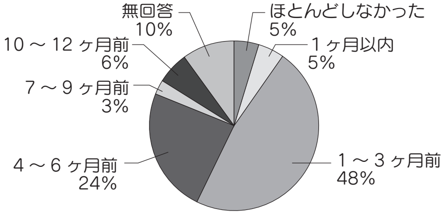

図４　国家試験の勉強について，勉強開始時期（*N=63*）

アンケート回答者のうち，特に国家試験に合格された方はよく計画立てられ，効率的に勉強されている様子がうかがえました。具体的な受験勉強の内容

としては以下のとおりです。

・①模擬小テストをやりながら，『ユーキャン社会福祉士よくでるテーマ88』を繰りかえし読んだ。②過去問３年分を２回解き，間違えたところをノートに書き出して覚えた。③模試を受けた。④中央法規の模擬試験集を３回分解き，まちがえたところをノートに書き出した。⑤過去問３年分の３回目を解く。⑥中央法規の模擬問題集をもう一度３回分，今度は図書館の自習室で時間をはかって解いた。⑦模擬小テストの間違えたところの復習。
・過去問３年分を３回解き，解説もしっかり読んだうえで模擬問題集を３回分行った。また，中央法規の『見て覚える国試ナビ』を何回も見直した。要点が的確にまとまっており，非常に役立った。
・とにかく５年分の過去問をひたすら解き進めた。わたしは２クール解き，その後に不正解の箇所を通して自分の弱点部分を把握してそこを重点的に勉強した。受験２カ月前頃からは市販の模擬問題（４回分）を購入し，本番の時間帯に合わせてトライした。自分の実力を知り，どの弱点部分を勉強すれば得点アップに繋がるか考えながら行った。
・①在宅模試の内容を復習（２回），②過去問，必携テキスト学習を科目ごとに実施した。③日本社会福祉養成校協会の配信講義の視聴（19科目）。12月の第２週目から上記３つのみにして，計画表をつくって集中学習しました。
・中央法規のワークブックで１回目はよく読み，２回目は重要なポイントを書き出し，３回目はもう一度よく読んだ。その後過去５年分の問題を解き，間違ったところを復習した。
・毎日必ず中央法規のワークブックの一問一答はやるようにした。時間がなかったため，過去問３年分やるのはあきらめ，２年分を３回繰り返し解いた。試験１か月前にはひたすら模擬問題集（中央法規）を解き，３回繰り返した。電車にいるときやカフェにいるときは，暗記マスター（中央法規）で勉強した。暗記マスターは８月ごろから外出時は必ず鞄に入れていた。
・過去問（３年分）を３回解き，その都度ワークブックでチェック。特に苦手なところはノートにまとめ，知識の定着を図った。１問１答や暗記ブック等を使い，隙き間時間を有効に活用して知識を１つでも多く定着させる。受験２週間前は市販の模擬問題集を使って，本番通りのスケジュールで問題を解き，間違ったところを復習する。

国家試験対策で多く利用されている参考書籍は以下のとおりです。

・一般社団法人日本社会福祉士（精神保健福祉士）養成校協会編『社会福祉士（精神保健福祉士）国家試験過去問解説集』中央法規出版
・一般社団法人日本社会福祉士（精神保健福祉士）養成校協会編『社会福祉士

（精神保健福祉士）国家試験模擬問題集』中央法規出版
・社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会編『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック（共通科目編）　』『(専門科目編)』中央法規出版
・いとう総研資格取得支援センター編『見て覚える！社会福祉士国試ナビ』中央法規出版
・社団法人日本社会福祉士（精神保健福祉士）養成校協会監修『社会福祉士（精神保健福祉士）国家試験過去問　一問一答』中央法規出版
・暗記マスター編集委員会編『らくらく暗記マスター　社会福祉士（精神保健福祉士）国家試験』中央法規出版
・医療情報科学研究所編『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』メディックメディア
・医療情報科学研究所編『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説』メディックメディア
・日本社会福祉士養成校協会編『社会福祉士国家試験受験直前対策web講座テキスト』日本社会福祉士養成校協会
・福祉教育カレッジ編『社会福祉士国試対策（専門・共通)』医学評論社
・ユーキャン社会福祉士試験研究会編『U-CANの社会福祉士まとめてすっきり！よくでるテーマ88』自由国民社
・協同教育研究会編『教職教養過去問』協同出版
・時事通信出版局編『教員採用試験Basic定着シリーズ』時事通信

国家試験対策にて在学生へアドバイスは以下のとおりです。
・レポート作成のときには幅広く学習するとよいと思います。そのようにしていくと多分だんだんレポートも書きやすくなるのではと思います。
・過去問を解くことは傾向をつかむという上で必要なこと。けっして問題を解くこと自体が学習だと思ってはいけない。単なる知識の定着の確認である。定着していないところは自分なりにノートを作ってまとめるなどして知識の定着を図ることが大切である。
・合格体験ガイダンスで勉強の方法などの話があり，刺激になった。模擬小テストも有効であった。特に対策講座は役に立った。できるだけ国試対策で開催されるサポートに参加し，受験へのモチベーションを高め，自分の勉強の進み具合を知ることが有効であると思われます。

本アンケートにご協力いただきました卒業生の皆様に御礼を申し上げますとともに，ますますのご活躍を祈念いたします。